

政策提案検討委員会における検討結果報告書

政策提案検討委員会（以下「委員会」という。）は、政策立案及び政策提案に関する事項、議長から諮問を受けた政策検討に関する事項、その他委員会において調査検討事案とされた事項について調査検討を行い、議員による政策立案及び政策提案の促進を図ることを目的として設置されたものである。

今期は、令和6年10月4日に第1回の委員会を開催して以降、18回にわたって調査及び検討を重ねてきた。その議論の経過と結果を、次のとおり報告する。

1 委員会の進め方等

(1) テーマの選定

これまでの進め方を踏襲し、議員全員を対象としてテーマ案を募集し、提案者から説明を受けた上で、提出されたテーマ案に対して、当委員会に出席する委員が所属する会派ごとに、必ず点差をつけてすべてのテーマ案に得点付けを行い、その合計点の最も高いものを今期のテーマとして採用することとした。

なお、最高合計点のテーマが複数あった場合は、各会派による点数付けにおいて、より多くの会派が高い点数を付けたテーマを選定することとした。

また、最終的な政策提案の方法については、委員会としての考えの整理が一定程度進んだ段階で、政策提言とするか条例とするかなど、課題の解決に最適な提案の方法を協議により決定することとした。

順位	案	提案者	合計点
1	公共交通の利用促進	川崎 憲正議員 (政風会)	29
2	若者のまちづくり参画政策	小菅 悟議員 (真政会)	26
3	主権者意識の向上及び条例の制定について	鈴木 演議員 (真政会)	20
4	地域公共交通の危機打開と充実について	菅野 宗長議員 (共産党いわき市議団)	19
5	主権者教育	小野 潤三議員 (正論の会)	17
6	『SDGs未来都市』選定に向けた取組の促進について	佐藤 不二夫議員 (政風会)	16
7	いわき市 フラ思いやり条例	塩田 美枝子議員 (公明党)	13

2 委員会開催経過等

(1) 開催経過

月日	委員会	主な協議事項等
令和6年		
10月4日	第1回政策提案検討委員会	・正副委員長選出
12月26日	第2回政策提案検討委員会	・前期の委員会の報告について ・今期の委員会の進め方について ・今期の委員会のテーマの選出について
12月26日～ 1月29日	新たなテーマ案の募集	
令和7年		
2月3日	第3回政策提案検討委員会	・今期の委員会のテーマの選定について（テーマ提出者から説明）
3月19日	第4回政策提案検討委員会	・今期の委員会のテーマについて（テーマの決定） ・委員会の進め方について
4月30日	第5回政策提案検討委員会	・執行部（都市建設部公共交通課）の概要説明（公共交通の現状と課題） ・公共交通の現状と課題について
5月28日	第6回政策提案検討委員会	・公共交通の現状と課題について ・今後の委員会の進め方について
6月27日	第7回政策提案検討委員会	・現状から抽出した（公共）交通課題（各会派から意見発表）
7月28日	第8回政策提案検討委員会	・現状から抽出した（公共）交通課題（委員会として意見のまとめ）
8月27日	第9回政策提案検討委員会	・課題解消後の理想とする状態（各会派から意見発表）
9月24日	第10回政策提案検討委員会	・課題解消後の理想とする状態（委員会として意見のまとめ） ・理想とする状態を達成するための課題
10月17日	第11回政策提案検討委員会	・これまでの協議の振り返り ・今後の委員会の進め方
11月17日	第12回政策提案検討委員会	・執行部（交通政策対策チーム）の説明（委員会検討課題とチーム検討事業との関係性） ・課題解決のための出来得る対応について
12月23日	第13回政策提案検討委員会	・意見交換会（好間地区）
令和8年		
1月29日～ 1月30日	行政視察（千葉県我孫子市、愛知県刈谷市）	

3月18日	第14回政策提案検討委員会	・意見交換会、行政視察の振り返り ・今後の方針について
4月20日	第15回政策提案検討委員会	・提言書の素案について
5月22日	第16回政策提案検討委員会	・提言書の素案に対する修正案について
6月30日	第17回政策提案検討委員会	・提言書の確定
7月28日	—	・正副議長への報告
8月3日	—	・各派代表者会議への説明
8月17日	—	・市長への提言書の提出
8月27日	第18回政策提案検討委員会	・検討結果報告書の協議・確定

(2) 協議事項等の要旨

ア 執行部（公共交通課）から説明聴取（第5回政策提案検討委員会）

今期の検討テーマ「公共交通機関の利用促進」について、全委員が共通認識を持った上で、今後の協議を進めることを目的とし、執行部（都市建設部公共交通課）に対し委員会へ出席することを要求し、本市の現状に関する説明を受けることとした。

イ 執行部（交通政策対策チーム）から説明聴取（第12回政策提案検討委員会）

執行部では公共交通を取り巻く課題への対応を社会的に看破できない課題と捉え、令和6年度に交通政策対策チームを設置したが、令和7年度より、チームとしての機動性、庁内の連動性を高めることを目的とし、体制の強化を図った。

当委員会では、本市の交通分野の取組について、さらに見識を深めることを目的とし、交通政策対策チームを委員会へ出席させ、整理した課題に対する現時点での執行部での検討状況と今後の計画について、説明を聴取することとした。





ウ 好間地区の市民を相手方とした意見交換（第13回政策提案検討委員会）

当委員会における政策立案及び政策提案に向けて、市民の意見を的確に把握する必要があるとされたことから、好間地区の市民を相手方とし、好間公民館において意見交換会を実施した。

対象地区の選定にあたっては、複数の委員より、次の理由から対象者を好間地区の市民とすることについて提案がなされたものである。

- ・ 好間地区は交通空白地帯として課題があるにも関わらず、あまり手が入っていない様子であり、現状、執行部の対応の様子が見えない。
- ・ 地理的に非常に多様で、市街地、中山間地域のほか工業団地があることから、交通について有意義な意見交換となることが期待できる。





エ 行政視察（千葉県我孫子市、愛知県刈谷市）

当委員会における協議を経て浮き彫りとなった、公共交通を取り巻く諸課題について、課題解消に資する先進的な事業を展開する2つの市の取組を視察した。行政視察の概要については、次のとおりである。

(ア) 千葉県我孫子市（令和8年1月29日（木））

- ・ 視察テーマ「送迎バスの空席を活用した我孫子市高齢者等外出応援事業について」

我孫子市では、高齢者及び障がい者の買い物や通院、駅や公共施設までの足として、市内の病院や自動車教習所、大学、市の福祉施設（西部福祉センター、老人福祉センターつつじ荘）の送迎バスを、施設利用者以外が無料で利用できる運行サービスの事業を実施している。本事業は、平成17年3月より実施している。





(イ) 愛知県刈谷市（令和8年1月30日（金））

・ 視察テーマ「刈谷放課後子育てMaaSプロジェクトについて」

刈谷市では「送迎」を「家族の問題」ではなく、「社会の問題」として捉え、家庭内送迎の課題解消は、送迎負担の軽減のみならず、子どもの学びや労働力確保などを含む公共的課題であるとした。

事業内容は、児童のみ乗車可能なタクシー車両を活用した相乗り交通により、「送迎」と「放課後教育」をセットで提供するものである。タクシー乗降時には、タクシー運転手のスマートフォンに子どもの持つICカードを読み込み、乗降時や移動時は、保護者のスマートフォンで子どもの移動状況が確認できる仕組みとなっている。





オ 公共交通の利用促進に関する提言書の最終確認（第17回政策提案検討委員会）

これまで当委員会で実施してきた協議内容を踏まえた、公共交通の利用促進に関する提言書(案)の最終確認を行い、成案とした。

カ 正副議長への報告

正副議長に対し、正副委員長より、これまでの協議結果とともに、公共交通の利用促進に関する提言書について報告した。

キ 市長への提言書の提出

市長に対し、議長より、公共交通の利用促進に関する提言書を提出した。

ク 検討結果報告書の最終確認（第18回政策提案検討委員会）

検討結果報告書の最終確認を実施し、今期の委員会を閉会した。

3 総括

(1) 振り返り

今期委員会は、テーマの選定の結果、政風会に所属する川崎憲正議員提案の「公共交通の利用促進」が最上位となったことから、「公共交通の利用促進」について検討することとした。

まず初めに、本市の現状を把握するため、都市建設部公共交通課及び交通政策対策チームから説明を受け、当市の現状と、執行部における公共交通に関する施策の状況を確認した。その後、委員間による協議で、当市における公共交通分野の課題を抽出した。

課題を整理した後は、好間地区の市民を相手方とし、好間公民館において意見交換会を

実施するほか、課題解消に資する先進的な事業を展開する二市の取組を視察した。

(2) 提言との関わりについて

当委員会における提言書は、前項の経過を踏まえた上で策定されたものであり、執行部においては、その内容を十分に理解され、公共交通分野の課題解消に資する実効性のある取組に臨まれることを期待する。

(3) 次期委員会への引継事項について

今期委員会の活動を通じ、2年という限られた任期で市民福祉の向上に資する精度の高い政策提案・提言を行うには、可能な限り多く協議の場を設けることが肝要であることについて、あらためて意を強くしたところである。

次期委員会においては、議会としてスピード感を持って社会的諸課題に取り組むとの観点から、テーマの選定に多くの期間を割くことなく、効率的かつ質の高い委員会となることに意を用いていただきたい。

今期、検討テーマを募る際は、慣例として、特定の議員に限定せず全ての議員に提案の機会を設けた。次期委員会は新たな委員構成での活動となるものの、その構成委員は現職議員であり、今期、一旦は現職議員全員が検討テーマについて応募する機会を得たものであることから、次期委員会では新たに検討テーマ案を募らず、今期提案されたテーマのうち、「公共交通の利用促進」に次いで高い得点であった、「若者のまちづくり参画政策」とすることとされたい。